



生かされ、生きるチカラ。

## 生かされているありがたさ— その感謝の念が 歩み続けるチカラになる。

秩父教会 坂本昌代さん

平成16年に坂本昌代さんの娘がくも膜下出血で危篤状態になってしまった。元気な姿に戻ることを願いつづける昌代さんには、娘と自分が重なる過去がある。それは、約30年前に自らも心筋梗塞を発症し死の恐怖におびえたことがあったのだ。その時、ひたすら回復を願い、励まし続けてくれた母がいた。かつて、自分へ向けられた母の慈愛を思い起こし、同じように娘と共に病と向き合おうと心が定まった。娘は5時間におよぶ手術の末に生還。6年後には車を運転できるまで回復した。しかし、今度は夫が膠原病、さらに前立腺がんに罹ってしまう。家族に次々に起こる、病気という名の災厄。けれども昌代さんは、「多くの支えがあるなかで、私たちはいま生かされています。その幸せを強く感じるいま、今度は私が病気で苦しむ人たちの思いを受け止め、分かち合いたいと思うのです」と強いまなざしを向けて語る。



## 素直に受け入れる

昔から、学校のPTAや町内会の役員は、なかなか決まらないものの代名詞のようにいわれます。気を遣い、多くの時間を割いて尽力し、それでいてときにはお叱りを受けたりする、損な役回りを受けとめられるからでしょう。まして、その責任が重ければ、自信がもてず、遠慮したくなるのもうなずけます。こうした場合、「とんでもない。私の任ではありません」と言ったほうが、謙虚に聞こえるかもしれません。しかし、ほんとうの謙虚さとは、「仏さま、私は卑小にして足りないだらけの者でございますが、どうか私を善きことにお使いください。お力を頂ければ、私にもやりとげることができましよう」という心なのではないのでしょうか。法華経に「諸仏の法是の如く、万億の方便を以て宜しきに随って法を説きたまう」とあるとおり、仏さまはそれぞれにふさわしい方法で説示してくださっているのです。そのことがわかれば、たとえ苦難に見舞われても、また大役を任されても、それらはみな学びの機会ととらえることができ、前向きに受け入れられるでしょう。

# 立正佼成会